

7月



「たひらい沖縄」より引用

<http://www.tabirai-hawaii.com/seeing/column/0003879.aspx>

あの日のあの川 リレー日記 ～第30話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第30話主人公 饒平名青空

(筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類 4年次 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(■川ガール・□川系男子)

(出身地を流れる川：沖縄県 石垣新川川)

「犬と駆けたアンパル」

いつのこと？：小学生

どこの川？：名蔵アンパル(干潟)、名蔵湾

幼いころから週末に家族で出かける先はもっぱら海でした。私が生まれ育ったのは沖縄県の石垣島で、海や山以外に遊ぶところがないのですが、何百回と訪れても飽きることはありません。お弁当とお菓子とパラソルを持って行って家族でのんびり過ごす時間は、ささやかですが贅沢なものでした。そんな家族でのお出掛けを私以上に楽しみにしていたのがうちの犬です。普段の散歩とは違って海ではリードを外して思いっきり走り回ることができるので(観光地のビーチ以外は人がほとんどいないのです)、「海いくよ！」と声をかけると大喜びで車に飛び乗りました。車の窓から顔を出して気持ちよさそうに風を感じていて、海が近づいてくると匂いで分かるらしく「キューンキューン！」と大騒ぎします。この鳴き声を聞くと私もつられて待ちきれなくなります。じとっとならにじむ汗をぬぐいながらああ早く海に入りたい！とはやる気持ちを抑え、「あんまり身を乗り出したら落ちちゃうって」と犬を叱るのが恒例でした。暑い日差し、キラキラと眩しいくらいに反射する青い海、潮のむわっとした匂い、黒くて艶々した毛並みの犬、うるさい鳴き声、お弁当の美味しそうな匂い、思い出だけで今でもあの時の気持ちが胸によみがえります。

犬と私の一番のお気に入りの場所はどこだったろう・・・と考えるとすぐに名蔵アンパルが思い浮かびました。名蔵アンパルは名蔵川の河口にできた干潟で、2005年にはラムサール条約に登録されている生き物の宝庫です。堅苦しい保護区域というわけではなく林を抜けた先にひっそりとある干潟で、どこまでも続く水面に雲やマングローブが反射して美しい光景が広がっています。人気もなくまるで秘密基地のようなアンパルは

私のお気に入りの場所で、うちの犬も水鳥を追いかけるのが大好きでした。鳥を追いかけて遠くのほうまで走って行く犬を横目で見ながらマングローブの根元に目をやると、ひっそりと潜んでいるのが私の宿敵の「とんとんみー（ミナミトビハゼ）」です。ぼけーっと腑抜けた顔に似合わないすばしっこい動きでなかなか捕まえることのできないとんとんみーと戦うのがアンパルでのお約束でした。泥だらけになりながら時間も忘れて追いかけてまわりましたが結局一度も捕まえることはできませんでした。犬も水鳥に追いつけずに諦めて私のところに戻ってきました。日が落ちてそろそろ帰ろうと母親が言いだすまで犬も私も夢中になって遊んで、潮と泥の香りに包まれた帰りの車で疲れ果てて眠りこけました。家に帰ると「楽しかったね、また行こうね」と声をかけながら泥だらけの犬をお風呂に入れるのが日課でした。

小学六年生の秋のことでした。幼稚園生の時に家に来た犬は7歳になりました。部活動で忙しい私は、この頃一緒に散歩することが少なくなっていました。少し前から体調が悪そうな犬の様子を心配しながらもあまりかまっていなかった。ある週末父親に「散歩、青空も行こう」と声をかけられたのですが何故かこの日はとても行きたくなくて、お留守番してるから行ってきてとそっけなく返してしまいました。「体調悪そうだしこれが最後の散歩になるかもしれないよ」という予想もしていなかった父の言葉にどきどきしながらも「縁起でもないこと言わないで」と言って送り出したのでした。2時間ほど経って帰宅した音が聞こえたのでいつもより早いなぁと思いながら出迎えると、今までに見たことのない顔で泣いている父の姿がありました。「死んじゃった」という一言で、何のことが分かりました。その日の散歩は名蔵湾の浜だったそうです。アンパルからも近く同じくらいよく行く場所で、うちの犬も大好きな場所でした。車の中で窓から顔を出す元気もなかったそうですが、車から降り木々の間を抜け目の前に海がぱっと広がる場所まで歩いたところでぱたっと倒れたそうです。「大好きな海が見えて安心したんだろうな」と話す父と一緒に私もわんわん泣きました。数日後、名蔵湾の人気の少ない浜辺に埋めてあげることになりました。いつでも海で遊べるし、大好きなアンパルもここから近いねと心の中で声をかけながら家族全員でお別れをしました。

あれから10年が経ち、大学生になった私は帰省する度に思い出の場所に行きます。海とも川とも違う独特な潮と泥の匂いのするアンパルを眺めながら、ああここで一緒に遊んだなあ、鳥を見つけるとすぐ追いかけて黒い点に見えるくらい遠くに行っちゃうんだよなあと懐かしく思い出すのです。今回リレー日記を執筆するにあたって水辺での記憶を掘り起こしたのですが、どこを切り取っても私の水辺での思い出は、黒くて艶々な毛並みで釣った魚を横で盗み食いするやんちゃなあの犬と一緒にあることに気づき、温かい気持ちになりました。あの頃とは違い、犬に追い回されることもなくのんびりと餌を探している水鳥を見ると、うちの犬の代わりに追いかけてまわりたい気分になります。私にとってアンパルはいつでも童心に返れる大切な場所です。



ラムサール条約登録湿地関係市町村会議HPより引用
(http://www.ramsarsite.jp/jp_24a.html)



(次は花島綺一さんにバトンを託します)